



G. F. Händel ヘンデル
MESSIAH **メサイア**

出演：隠岐 彩夏 (ソプラノ) 上杉 清仁 (カウンターテナー)
田口 昌範 (テノール) 中川郁太郎 (バス)
原田 陽 (コンサートマスター) 山本 徹 (チェロ)
根本 卓也 (オルガン) 山本 庸子 (チェンバロ)
慶應義塾大学コレギウム・ムジクム・アカデミー声楽アンサンブル
慶應《メサイア》プロジェクトを支える若きエキスパートによる特別オーケストラ
指揮：佐藤 望

2018年2月6日(火) 18時30分開演 (17時30分開場)

プレトーク17時45分 第2部開始予定19時15分

藤原洋記念ホール(慶應義塾大学日吉キャンパス協生館内)

アクセス:東急東横線・東急目黒線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅徒歩1分

入場料2,000円(全自由席) ※未就学児童入場不可

先行販売 10月2日より慶應カード会員様対象(<http://keiocard.com/shop/>)

一般販売 10月30日よりセブンチケット【店頭】セブン-イレブン店内マルチコピー機 【WEB】<http://7ticket.jp>、e+【イープラス】チケット(eplus.jp)、
慶應生協日吉店3Fプレイガイド(045-563-8485)、慶應義塾大学日吉音楽学研究室(045-566-1359)

【主催】慶應義塾大学教養研究センター／慶應義塾大学日吉音楽学研究室

【問い合わせ】慶應義塾大学日吉音楽学研究室 045-566-1359 <http://musicology.hc.keio.ac.jp/>

慶應義塾大学で音楽を学ぶ学生たちと
 在京で活躍する古楽の若きエキスパートたちとのコラボレーション企画
 ヘンデル《メサイア》

慶應義塾大学コレgium・ムジクム アカデミー声楽アンサンブル について

慶應義塾大学コレgium・ムジクムは、慶應義塾大学日吉キャンパスで開設される音楽授業を履修する学生による演奏団体の総称。アカデミー声楽アンサンブルは、その中の、オーディションで選抜された小編成の室内合唱グループ。そのメンバーは、株式会社龍角散寄附講座「身体知・音楽」授業を履修し、年余にわたり特別な訓練を重ねてきた。

これまで、バロックから日本近現代に至るレパートリーに取り組み、日吉キャンパスのみならず、阿佐ヶ谷教会、東京女子大学、花巻市、大槌町などでも公演し好評を博している。



隠岐彩夏 Ayaka Oki, Soprano

青森県出身。東京芸術大学大学院博士後期課程修了。三菱地所賞受賞。日本音楽コンクール声楽部門第一位。岩谷賞、E.ナカミチ賞。友愛ドイツ歌曲コンクール第一位。文部科学大臣賞。国際オペラガラコンサート（於モントリオール）日本代表。二期会会員。



上杉清仁 Sumihito Uesugi, Contra Tenor

高知県出身。東京芸術大学大学院古楽科、博士号（音楽）を取得。スイス・バーゼル音楽院スコラカントルムに留学し、ゲルト・テルク、アンドレアス・ショル両氏のもとで研鑽を積んだ。2000年古楽コンクール（山梨）において最高位受賞。桜美林大学非常勤講師。



田口昌範 Masanori Taguchi, Tenor

秋田市出身。東京芸術大学大学院修士課程修了。大学院在学中には、東京芸術大学合唱定期演奏会において3年連続ソリストを務めた。モーツァルト『戴冠ミサ』、ハイドン『テレジアミサ』、ベートーヴェン『ミサソレムニス』など多数の作品に出演して定評を得る。



中川郁太郎 Ikutaro Nakagawa, Bass

東京芸術大学大学院独唱科修了。ドイツ、ライプツィヒに留学。コンサートシンガーとして、バッハ、ヘンデル作品を中心に幅広いレパートリーを持つ。東京室内歌劇場会員、東北学院大学宗教音楽研究所特任准教授。



原田 陽 Akira Harada, Concertmaster

東京都生まれ。13歳で渡米し、ニューヨークジュリアード音楽院より奨学金を受け、研鑽を積む。1999年バリ国立高等音楽院大学院課程に入学。帰国後ソリストとして、バッハ・コレgium・ジャパン等の数々のアンサンブルで活躍。



山本 徹 Toru Yamamoto, Violoncello

東京芸術大学大学院、チューリヒ芸術大学修了。2008年ライプツィヒ・バッハ国際コンクール第2位他受賞多数。バッハ・コレgium・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカのメンバー。

<http://scordatoru.wix.com/toru-yamamoto>

©Shigeto Imura



根本卓也 Takuya Nemoto, Basso continuo

東京芸術大学大学院修士課程（指揮専攻）修了。リヨン国立高等音楽院にて、通奏低音（チェンバロ・オルガンによる即興伴奏法）のディプロマを取得。新国立劇場でオペラ公演の音楽スタッフとして活躍する傍ら、数々の作品の作曲も手がける。

<http://nemototakuya.info>



佐藤 望 Nozomi Sato, Conductor

福岡県出身。慶應義塾大学教授（音楽学）。主要著書に『ドイツ・バロック器楽論』、『バロック音楽を考える』がある。東京芸術大学楽理科卒業。慶應義塾大学コレgium・ムジクム声楽部門指導者。日本基督教団阿佐ヶ谷教会オルガニスト。

声楽指導：古川精一、川田早苗

ヘンデルの《メサイア》について

ヘンデルの《メサイア》は、限界を超え、境界を越える力を持っているように思えます。ドイツ生まれのヘンデルはイギリスに渡り、オペラの分野で大成功を収めて栄誉をほしいままにします。しかしやがて、人々の嗜好のうつろいに翻弄されて、彼のオペラ座はついに破産の憂き目を見ることになります。その挫折によるどん底を味わった後に、再起をかけるなかで生み出された作品であることが、《メサイア》という音楽のもつ底知れないパワーに関連しているのではないかと思います。バロック期の作品で、成立以来これほど途切れることなく、これほど広い地域で、これほど頻りに演奏され続け、愛され続けた作品は極めて稀です。

自分や他者の限界を決めつけ、境界やバリアを張って壁の中に閉じこもろうとする、そうした不穏な力がはびこるこの時代に、ヘンデルが、またこの音楽を生み出し、引き継いで演奏し続けた人々のメッセージを、皆さんとともに味わいたいと思います。

（佐藤望）

プレトーク：演奏前17時45分より、演奏者によるプレトーク「ヘンデルの《メサイア》が語るもの」を実施します。